



おおみなみ

笑顔あふれる 大南

～自分もよく、相手もよく、みんなもよく～



令和7年度

練馬区立大泉南小学校

校長 田村 亜紀子

令和7年 8月29日

Tel.03-3922-1371

「自分たちで 自分たちの生活を よりよく生きる」

校長 田村 亜紀子

長い夏休みが終わろうとしています。今年の夏は記録的な暑さの中、猛暑日も過去最多を更新しています。校庭開放などもできなかったことも多かったと伺っており、子供たちの夏休みの過ごし方も各ご家庭で様々な工夫をされたのではないのでしょうか。また、九州や北海道など、各地で線状降水帯などによる豪雨被害もあり、自然の猛威を痛感する日々でもありました。被災に遭われた方々には、心から、1日も早く日常が取り戻されるよう、祈念いたします。

さて、そのような夏休みも終わり、学校に子供たちの声が帰ってきます。2学期は、年度の中でも一番長く、充実した学期です。学習発表会などの学校行事や、移動教室・遠足などの学年での行事、見学や訪問などの体験学習もあり、各学年でいっそうの成長が図られる時期となります。

学校での1学期は、新しい学年や学級の「スタート」の学期でした。新しい友達や先生と出会い、新しい学年での学習や学校生活の方法について確かめながら、「学級」をつくってきました。2学期は、みんなで「自分たちの生活をつくる」時期です。行事はもちろんですが、日々の学習や生活の中で、「自分たちの学級」として、「よりよい生活の場」を構築していくのです。そして3学期には、この学級での生活をまとめ、この学年を「卒業」し、新たな学年や出会いに向けて準備を進めていきます。このように考えると2学期は、学級や学年において大きく成長・成熟をする時期と言えます。

子供たち一人一人を育てる中で、私たち大人は、その子のよさを見付け、そのよさを伸ばすために、励ましていきます。さらに、「もっとできるよ。期待しているよ。」と応援することで、その子もがんばろうとし、力をさらに発揮していきます。そして、自分の成長を感じながら、「自分もやればできるんだ。」という自信を大きくしていきます。学校生活においては、先生からだけでなく、友達とも交流しながら、よりよく生活するために考えていきます。その仲間からの応援や信頼、励ましは、新しい力となって、自分自身が「よりよく生きる」ために、いっそうの成長が促されます。

子供たちが「自分たちの学級」の中で、互いに認め合ったり助け合ったりしながら、大きく成長していく中で、子供たち自身が自分たちの生活の基盤である学級生活を見つめ、「もっと、こんな学級にしたい」と考えていくことは、とても大切です。けれども、「みんなのために」という名の下に、一人一人が埋没しては本末転倒です。それは、集団からの「同調圧力」とも言えます。一人一人がいなくては、そもそも集団はつくれません。だからといって、個を大切にすぎるあまり、みんながそれぞれに勝手なことをしてしまっても、集団生活は成り立ちません。互いに認め合い、よいところを伸ばし、苦手なところを補いながら、みんなで「よりよく生きる」ことを考え、集団をつくっていくのです。集団の成熟とその中にいる一人一人の成長は、それぞれ独立しているものではなく、互いに関係しあっています。「集団が個を育て、個が集団を成熟させる」のです。

以前の学校便りでも書きましたが、「豆腐ではなく、納豆のような学級に」という話を改めてお伝えしたいと思います。豆腐も納豆も、材料は同じ大豆です。豆腐は、大豆をすり潰し型に入れて固めます。出来上がった豆腐はどの豆腐もきれいに整っていますが、もとの大豆の粒は見えません。納豆は、大豆に納豆菌を散布し、一定期間の熟成を経て完成します。ですから、大豆の形がはっきり見えながらも、互いに糸を引き絡み合っているのです。豆腐としての役割や美しさもあるでしょう。しかし、学級としては、一人一人の顔が見え、互いに絡み合いながら熟成する中で、よりその学級らしい「味」が熟成されるのでしょうか。そして、子供たちは、自分たちの生活の基盤である「学級や学校」を「自分たちでつくる」ための経験や学習を積み重ね、「よりよく生きる」追求する力を育てていくのです。

どの時代においても、人間は人と人との間で成長します。様々な人と関わりながら、自分がよりよく生きることは、よりよい社会を築くことにもつながります。私たち大人は、子供たちがよりよい未来の社会をつくる大人になるために、今の目の前の子供たちに、どんなことを投げかけていくのか、どのように成長を促していくのかが問われています。日々の学習はもちろん、学校生活や豊かな体験的な学習を通して、一層の成長となるよう、尽力してまいります。